

生物多様性への取り組み

水資源の保全と責任ある利用

当社は、医薬品製造に不可欠な水資源を持続的に利用し、地域環境との共生を図るため、科学的なリスク評価と定量的な資源管理を組み合わせた取り組みを行っています。

2024 年度は、WWF が提供するリスク評価ツール「水リスクフィルター」・「生物多様性リスクフィルター」※を用い、全製造拠点(大宮工場、大宮第二工場、北埼玉工場、幸手工場)における水資源および生態系へのリスク評価を実施しました。

その結果、以下のことが明らかになりました。

- 全拠点で「水の操業上のリスク」は非常に高く、いずれも 4.54 以上のスコアとなりました。中でも北埼玉工場では、4.66 と他拠点よりわずかに高く評価されており、より一層の水利用管理や設備保全への取り組みが求められます。
 - 各拠点の水の物理リスクに大きな差異は見られないものの、幸手工場でわずかに高く評価されました。これは、洪水リスクの評価が他拠点(スコア 3.0)より相対的に高かったため(スコア 4.5)、排水管理や非常時対応の面で留意が必要です。
 - 生物多様性の物理リスクでは全拠点で自然環境への影響リスクが中程度(スコア 3.5)と評価されました。評判リスクでは、幸手工場は他拠点(スコア 2.66)に比べて相対的に低い(スコア 2.16)と評価されました。一方、同工場周辺の水環境は比較的良好であることから、仮に水質に影響を与える事象が発生した場合の環境負荷は大きく、未然防止のための管理がより重要となります。
- こうした評価に基づき、当社は以下のような水資源保全の取り組みを進めています。
- 高活性医薬品原料含有廃液は適切に回収し、産業廃棄物として安全に廃棄。
 - 放流水は毎月分析し、水質基準に適合していることを確認。

今後の課題と対応

- 気候変動に伴う渇水や集中豪雨といった異常気象リスクに対応するため、設備・BCPの強化が必要。
- 水リスクおよび生物多様性リスクの評価は今後も継続し、リスクの変化を把握しながら、流域への負荷を考慮した効果的な水マネジメントに取り組んでまいります。

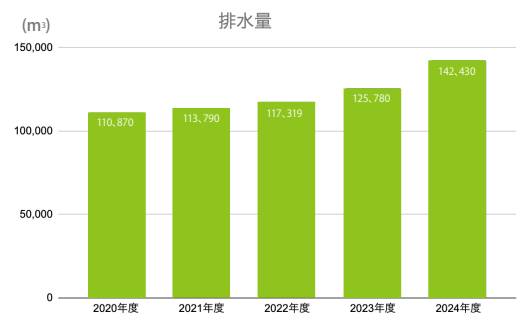
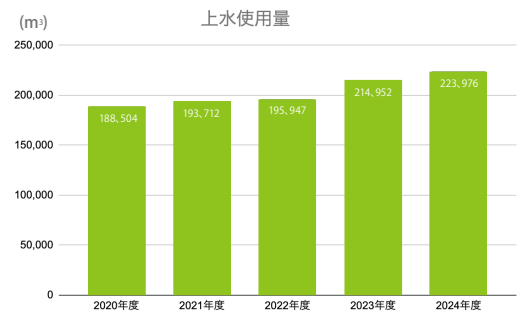
※リスクフィルターとは

WWF(世界自然保護基金)が提供する評価ツールで、水資源や生物多様性に関する地域の物理的リスクや社会的な関心度を定量的に可視化するものです。企業の環境リスク評価や対策立案に活用されています。リスクスコアは、WWF および関連研究機関が提供する地理空間データをもとに、対象拠点の位置情報に基づいて水資源・生態系リスク指標を総合的に評価し、0~5 の段階で数値化されたものです。洪水頻度や水ストレス、自然保全状況など複数の環境指標が加味されています。

WWF リスクフィルターによる生物多様性・水リスク評価

事業所	他工場			
リスクの観点	幸手工場	北埼玉工場	大宮工場	大宮第二工場
生物多様性(物理)	3.5	3.5		
生物多様性(評判)	2.16	2.66		
水リスク(物理)	3.08	3.00		
水リスク(評判)	2.20	2.24		
水: 操業リスク	4.54	4.66	4.54	

1.0 <= x <= 1.8 Very low risk
 1.8 < x <= 2.6 Low risk
 2.6 < x <= 3.4 Medium risk
 3.4 < x <= 4.2 High risk
 4.2 < x <= 5.0 Very high risk



化学物質への取り組み



PRTR 法とさいたま市条例に基づき、化学物質の排出・移動量を把握・管理し、環境負荷削減に取り組んでいます。

PRTR 法およびさいたま市条例への対応

当社では、化学物質の環境中への排出・移動を把握・管理するため、「化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法※1)」および関連する「さいたま市生活環境に関する保全の条例※2」に基づく対応を継続的にを行っています。

※1 PRTR 法：特定化学物質の大気・排水への排出量や廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量等の把握、および年間取扱量が 1t 以上の当該化学物質の取扱量等の届出が義務付けられています。

※2 さいたま市生活環境に関する保全の条例：2009 年に施行され、年間取扱量が 0.5t 以上の化学物質の届出が求められています。

2024 年度は、PRTR 法の対象となる物質 1 種について、また、さいたま市条例に該当する 1 物質について排出・移動量の集計を実施し、所定の手続きと報告を完了しています。PRTR 法の対象となるクラリスロマイシンは、前年度から取扱量が 2 割増増加していますが、関係者に環境への排出を抑制する必要があることを周知し、クラリスロマイシン製剤の生産を連続生産とすることにより洗浄回数を減らして 7 割増環境への排出を削減しました。今後も環境への排出を更に抑制する手段を検討し、対応を進めてまいります。

年度	化学物質名	取扱量 (kg/ 年)	環境への排出量 (kg/ 年)	事業所外移動量 (kg/ 年)	PRTR 法	さいたま市条例
2023 年度	クラリスロマイシン	3600	51	710	○	○
	メタノール	3719	-	3719	-	
2024 年度	クラリスロマイシン	4300	15	950	○	○
	メタノール	3366	-	3366	-	

環境コミュニケーションの取り組み

当社では、地域社会との信頼関係の構築を目的に、環境に関する情報発信や意見交換の場を大切にしています。2024 年度は新規の環境コミュニケーション活動は実施できませんでしたが、2023 年度には大宮工場において、近隣自治会の皆さんを招いて環境コミュニケーションを開催しました。

当日は、当社公式 YouTube チャンネルの動画を利用し、医薬品の製造工程の紹介をするとともに、事業概要や環境への取り組みについて発表し、企業の環境責任に関する理解促進を図りました。

今後も、地域との対話を重視し、継続的な取り組みを進めてまいります。

継続・発展に向けて

今後も法令遵守を徹底するとともに、地域社会との建設的な対話を重視し、環境負荷低減と透明性の高い情報開示に努めてまいります。



地域の皆さまと環境の取り組みについて対話